

# 名古屋陽子線治療センターにおいて 前立腺がんの治療期間が短くなります！

名古屋陽子線治療センターでは、前立腺がんへの陽子線治療について、治療開始から2019年（令和元年）11月まで約1,400例の治療実績を積み重ねてきました。

このたび、金マーカー・放射線治療用合成吸収性材料の留置により、陽子線をがんに正確に照射するとともに直腸出血の発生頻度の低減を図っていることから、1回当たりの線量を上げ、**照射回数を減少させた治療（少分割照射）を新たに開始**することになりましたのでお知らせします。

これにより**前立腺がんの治療期間が約1か月から約3週間へ短縮**され、患者さんの通院の負担がさらに軽減されます。

なお、この少分割照射法は、国内の多くの重粒子線治療施設で行われており、従来の照射法と同等の治療結果が報告されています。

○**開始時期** 2020年（令和2年）1月

○**適応症例** 限局性及び局所進行性前立腺がん（転移を有するものを除く。）

【除外基準】※下記に該当する方は従来の回数での治療となります。

- ①抗凝固剤・抗血小板剤を2剤以上服薬している方
- ②潰瘍性大腸炎や直腸がん術後など腸疾患の方
- ③金マーカー・放射線治療用合成吸収性材料の留置が不可能又は拒否された方など

○**照射回数・治療期間の経緯**

時 期	照 射 回 数	治 療 期 間
2013年(平成25年)2月～ 《治療開始当初》	37回又は39回	約2か月 (週5回×8週間)
2014年(平成26年)10月～	20回又は21回	約1か月 (週5回×4週間)
2020年(令和2年)1月～	<u>12回</u>	約3週間 (週4回×3週間)